



2026年8月期 第2四半期（中間期）末

# 決算説明資料



株式会社エッチ・ケー・エス

東証スタンダード  
証券コード：7219

1. 当社紹介
2. 2026年8月期 第2四半期（中間期） 連結決算概況
3. 当第2四半期（中間期） 連結決算の概要
4. 当第2四半期（中間期） 連結売上実績、および営業利益の推移
5. 当第2四半期（中間期） 連結利益の推移
6. 前年同期比 当第2四半期（中間期） 連結経常利益の増減要因
7. 当第2四半期（中間期） 主要な販管費科目の増減
8. 当第2四半期（中間期） 連結貸借対照表の概要
9. 当第2四半期（中間期）のトピックス
10. 当第2四半期（中間期）の新製品
11. 2026年8月期 経営目標

# 1. 当社紹介



## 経営理念

感性に訴える  
こだわりのもの造りを通じて  
お客様のライフスタイルを  
より個性豊かなものに演出する事に  
挑戦し続ける。

## 経営方針

1. お客様の立場で行動する
2. 全ての品質を向上する
3. 世界的視野で行動する
4. 市場は自ら創造する
5. 環境との調和を図る

## 行動方針

1. プロ意識を持とう！  
今の自分の仕事レベルに自信が持てるか  
今やっている仕事でお客様が満足できるか  
常に目標意識を持って前向きに行動しよう！  
常に競争意識を持って自分のレベルを高めていこう！
2. 情報を共有化しよう！  
良い商品を創るためには会社の連携が必要  
自らの役割・責任を明確にし、良い商品を作るために  
コミュニケーションを活発にしよう！
3. 魅力ある会社にしよう！  
お客様の満足度は、良い商品、良いサービスから生まれ、  
良い商品、良いサービスは社員の満足度から生まれる。  
会社の将来像を自分たちで造りあげ、  
自ら行動を起こし魅力ある会社にしよう！

会社名 **株式会社エッチ・ケー・エス**

本社所在地 **静岡県富士宮市上井出2266番地**

設立 **1973年10月3日**

資本金 **878百万円**

代表者 **代表取締役社長 水口 大輔**

上場証券取引所 **東京証券取引所 スタンダード市場  
(証券コード 7219)**

従業員数 **383名 (2025年8月末・連結)  
(外、平均臨時雇用者数 34名)**

主な事業内容 **自動車部品の製造、販売**

主な国内子会社 **日生工業株式会社  
株式会社エッチ・ケー・エス テクニカルファクトリー**

主な海外子会社 **HKS USA, INC.、HKS EUROPE LIMITED、  
HKS (THAILAND) Co., Ltd.  
艾驰楷时 (上海) 汽车科技有限公司 (HKS上海)**

# 1. 当社紹介（事業の紹介）



## オートアフター マーケット事業

トータルバランスチューニング

アフターマーケット向けのチューニングのパイオニア企業として、事業内容は多岐にわたります。オリジナルマフラーやサスペンション、電子制御部品やエンジンパーツの設計・開発・製造などをはじめ、とりわけエンジン開発で培ったノウハウと実績が私たちの事業領域をさらに押し広げています。それは大排気量エンジン搭載の高級車モデルのチューニングをねらうスーパーチャージャーの開発であり、個性溢れる大人のチューニングを視野に入れた取り組みです。エンジニアの発想で常にいちばん新しいものを考え、カタチにするエッチ・ケー・エス。クルマの進化を真摯に見つめ、常に最高のドライビングパフォーマンスを引き出し、お客様の喜びを極大化します。



## エキゾーストパーツ・サスペンション・過給器他 OEM事業、機械加工受託事業

ISO9001 認証取得、品質に基づいたモノづくり



自動車用アフターマーケットのチューニングで培われた技術を活かし、主要自動車メーカー様などへの部品のOEM供給を行っております。マフラーの自動車メーカー様での純正採用。電子制御部品の採用、スーパーチャージャー・ターボチャージャーの純正採用など、各分野でのアフターで培った技術が自動車メーカー様をはじめ、自動車に限らず、マリッジット用のスーパーチャージャー等にも採用されております。HKSでは自社での研究、開発、自社生産設備を有し、ISO9001認証取得済みの工場での品質に基づいたモノづくりを行い、各種メーカー様のニーズにお応えいたします。



## 主要なオートアフターマーケットパーツ



マフラー商材  
(Super Turbo Muffler RZ34)



サスペンション商材  
(HIPERMAX S)



ターボ・冷却商材  
(SYMMETRY TURBINE GT5565)



電子系商材  
(CAN SMART METER)



エンジン商材  
(CAM PULLEY)



用品系商材  
(COLD AIR INTAKE KIT)

## 基礎研究・開発分野

### 高効率エンジン事業分野 アドバンスド・ヘリテージ事業

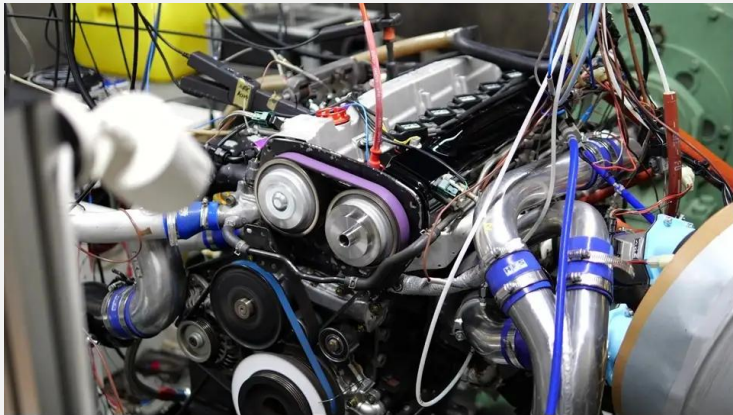
「あなたの旧車に最新の技術、未来の技術を」  
惜しまれつつ生産を終了した旧車をより魅力的に、より安心して長くお使い頂くために、最新のクルマに投入されている技術だけではなく、これから発売されるクルマに取り入れられるであろう、未来に向けた最先端の技術を、旧車向けのチューニングパーツに取り入れる取り組みを進めています。

### 人とくるまのテクノロジー展 2025 YOKOHAMAにて、研究成果を発表

当社は『旧世代エンジンの高効率化による持続可能な社会への新アプローチ』として、主に1990年代に製造されたエンジンを対象に、高圧縮比化、副室燃焼、高耐ノック性CN燃料対応といった、高効率化技術の開発を進めています。

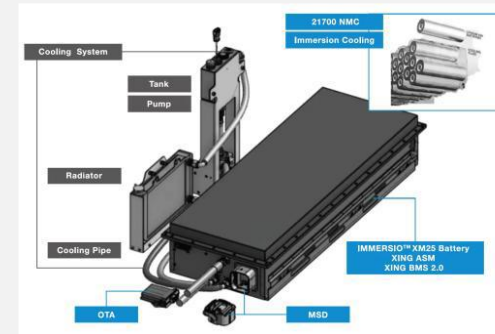
- ①熱効率25.5%のベースエンジンで開発を進め、圧縮比を15.5に変更、現時点で**最大熱効率40.6%**を達成。（従来比+15.1ポイント向上）
- ②既販車エンジンの高効率化で、新車製造および廃棄に伴う資源消費やCO<sub>2</sub>排出を含むライフサイクル全体（LCA）での環境影響低減に貢献。

当社の強みであるレトロフィット技術を活用、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一手として位置づけています。



### バッテリー事業分野 EVトラック向け 交換式バッテリーパック

商用車向け交換式バッテリーの基礎開発を進めながら、事業の受託も行っています。EV化された商用車への充電は、車両に搭載されたバッテリーに直接充電するのではなく、バッテリー交換ステーションにて充電済のバッテリーを用意し、ステーションにて、車両に搭載されたバッテリーを短時間で充電済のものとの交換します。これにより、車両の待機時間を短縮し、運行効率を高めます。



### バッテリー事業分野 EV用 液浸冷却バッテリー

液浸冷却バッテリーパックの開発を、協業関係にある台湾のXING Mobility社と進めています。

### EVコンバージョン分野 e-HIACE“MultiEnergy”Concept

EVコンバージョンプロジェクトのコンセプト車両。車両の駆動をモーターで電動化し、エンジンはガスハイブリッド化したうえで、発電機として使用します。当社は、この車両をベースに、EVコンバージョンキットの開発に向けた基礎研究を進めています。



### 当第2四半期（中間期）における当社の概況

当社グループが主とするアフターマーケットをとりまく環境は、各国の通商政策による市場への影響をはじめ、不動産市場・労働市場の足踏みによる中国経済の失速リスク、さらには中東地域での戦争勃発を受けた地政学的リスクの高まり等、その不確実性はますます高まっている。特に米国における輸入関税問題は、輸入品の価格上昇にともなう現地顧客需要の減退への懸念や、関税の追加負担による当社利益率の低下など、その影響は大きく、米国通商政策への対応は当社の喫緊の課題である。

当社は当期において、これまで通りブランディング活動や「ことづくり」を通じた顧客需要の深掘りをはかるとともに、海外最大の市場である米国市場にもフォーカスし、輸出関税削減への取り組みや、現地での需要減退を最小限に食い止める施策等を進めてきた。その結果、米国における当社商材への引き合いは伸長、国内販路における顧客需要の掘り起こし等も功を奏し、アフターマーケット事業の売上高は前年同期を上回った。これらの結果、製造受託事業における委託企業の需要減少等による売上高の減少や、関税の負担による販売費の増加等の影響を受けつつも、当社は当第2四半期において、売上高、および全ての利益で、前年同期を上回った。

### 当社が優先的に対処すべき課題

当社は、最優先課題である米国通商政策への対応に加え、サスペンションやマフラー、エンジン部品、ターボ製品等、内製品を中心としたコスト戦略の強化を重点課題に掲げ、さらなる競争力の強化をはかっていく。

さらに、当社の基本戦略である、新規ラインアップを含むスピーディな車種展開や、お客様とじかに触れ合う機会の創出「ことづくり」を通じたお客様のニーズの先取りと深掘り、さらには「ことづくり」から、お客様の体験・体感に訴える「ものづくり」につなげる取り組みにも注力する。お客様の需要に即した商材の企画・開発・提案を通じて、当社商材への需要を喚起する取り組みを進める。

### 当第2四半期（中間期）の売上の状況

当社の主力であるアフターマーケット事業においては、国内・海外販路ともに需要が堅調に推移し、売上高は前年同期を上回った。特に米国販路においては、現地代理店において、コロナ特需時に買い溜めした在庫の調整が進んだことに加え、当社が負担する米国輸入関税の販売価格への転嫁を、現地の需要や当社工場の稼働率等をみながら慎重に進めたことで、競合他社に対する販売価格面での優位性が生まれており、当期に入って以降、伸長の一途をたどった。

反面、アフターマーケット以外の事業は、主に製造受託事業にて委託企業の在庫調整等にもともなう受注減の影響が続いたことに加え、新規受託案件の伸び悩み等もあり、売上高は前年同期を下回った。しかし、アフターマーケット事業の伸びがこれをカバーし、売上高全体では4,424百万円（前年同期比4.9%増）となった。

### 当第2四半期（中間期）の利益の状況

損益面では、製造受託事業の伸び悩み等が、同事業を主体とする連結対象子会社の売上総利益率の低下を招いたが、アフターマーケット事業の伸びが本社工場の稼働率を引き上げたこと等から、売上総利益率は前年同期を0.5ポイント上回る41.4%となった。しかし、販売費及び一般管理費では、主として米国輸入関税の支払により販売運送費が増加した影響から、前年同期比107百万円の増加となり、営業利益は114百万円（前年同期比1.5%増）となった。

なお、経常利益は、円安にもともなう為替差益の発生等で228百万円（前期比33.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益16百万円、および保険金収入15百万円の計上等から185百万円（前期比39.9%増）となった。

### 3. 当第2四半期（中間期）連結決算の概要（単位：百万円）



※百万円未満は切り捨て

	2024年2月末		2025年2月末		2026年2月末		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期比
売上高	4,209	100.0%	4,216	100.0%	4,424	100.0%	104.9%
売上総利益	1,696	40.3%	1,723	40.9%	1,832	41.4%	106.3%
販売費及び一般管理費	1,584	37.6%	1,610	38.2%	1,718	38.8%	106.7%
営業利益	112	2.7%	112	2.7%	114	2.6%	101.5%
経常利益	154	3.7%	171	4.1%	228	5.2%	133.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	122	2.9%	132	3.1%	185	4.2%	139.9%

# 4. 当第2四半期 連結売上実績、および営業利益の推移（単位：百万円）

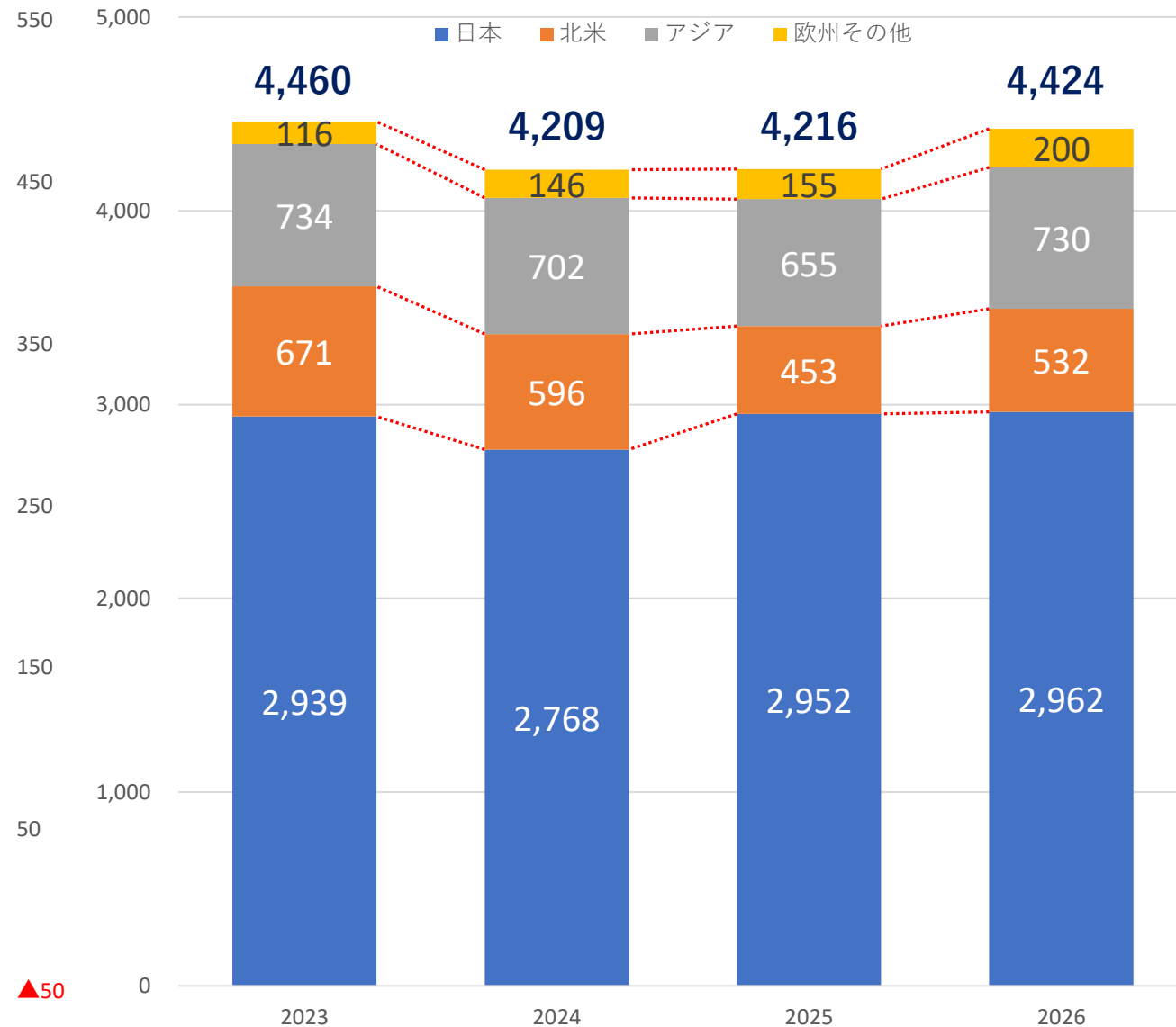
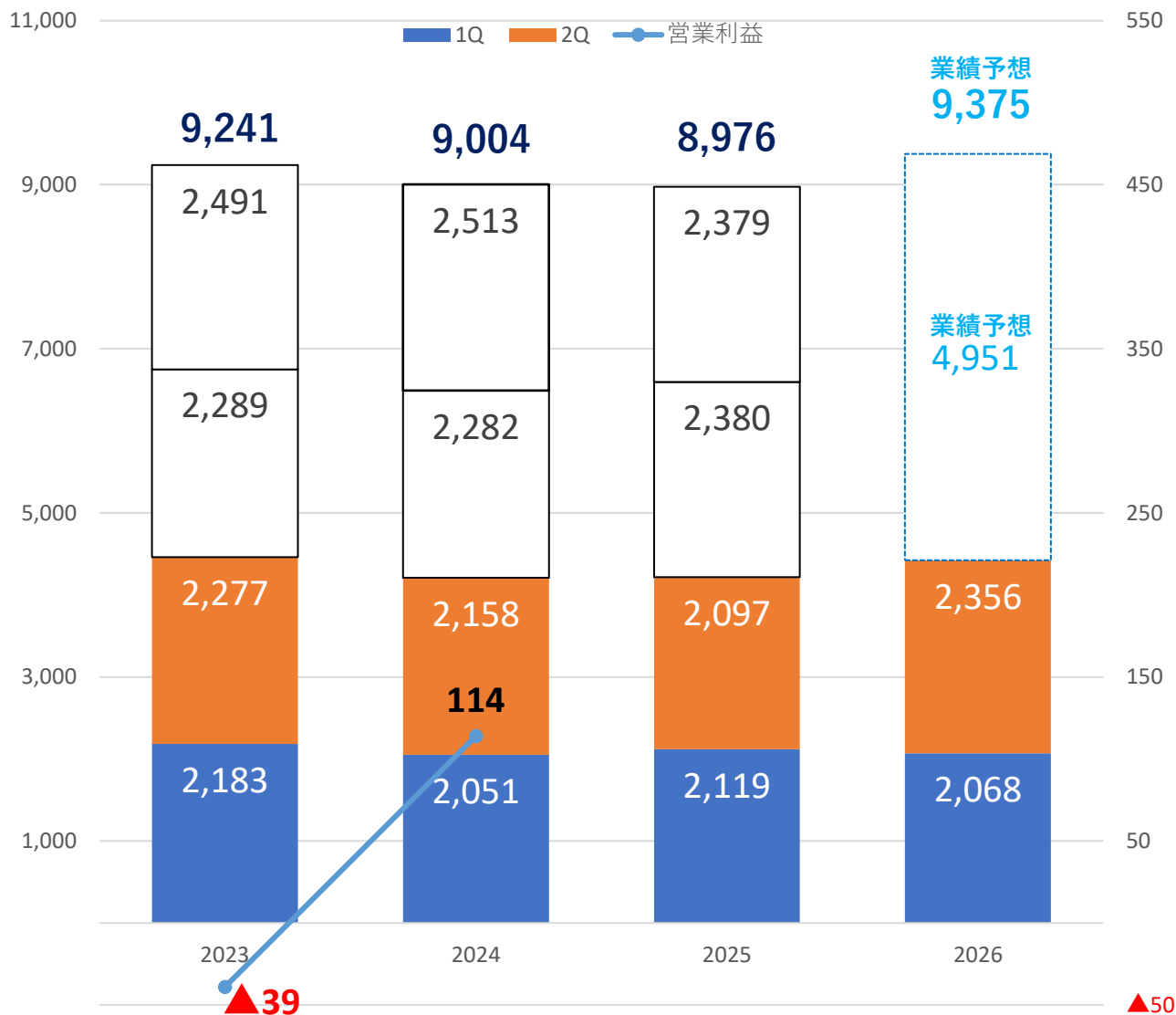


## 四半期業績の推移（通期累計での比較）

※百万円未満は切り捨て

## 地域別売上実績の推移（第2四半期累計での比較）

※百万円未満は切り捨て

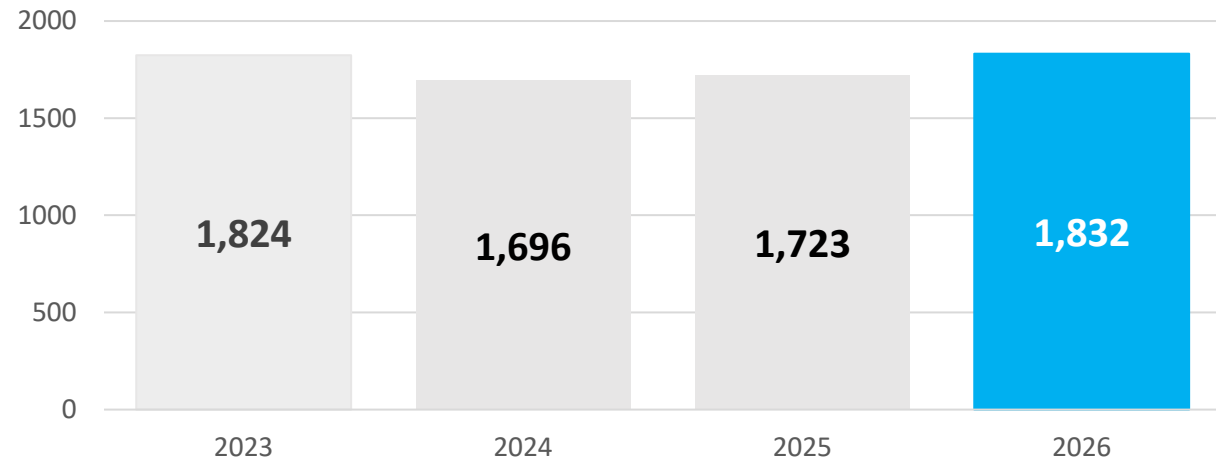


# 5. 当第2四半期（中間期）連結利益の推移（単位：百万円）



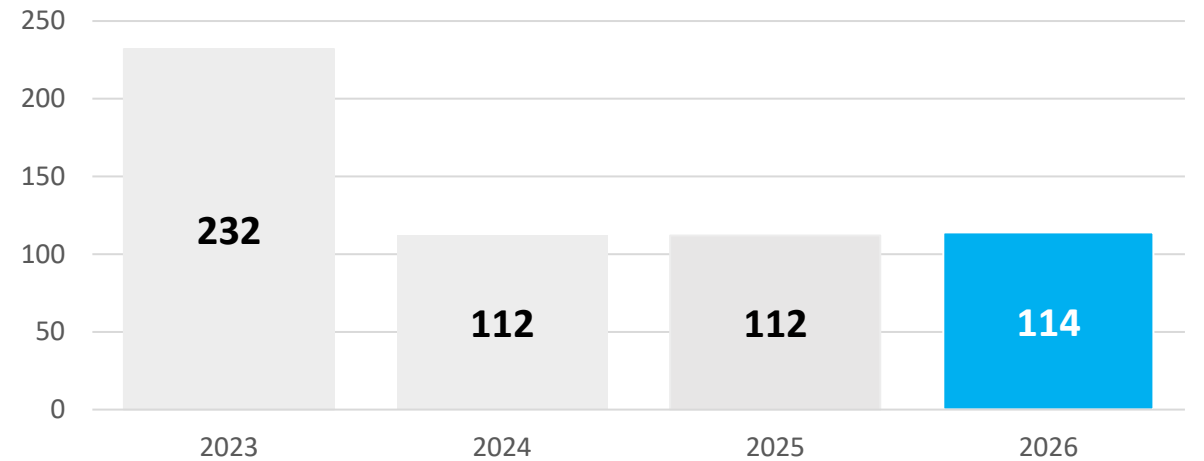
※百万円未満は切り捨て

## 売上総利益



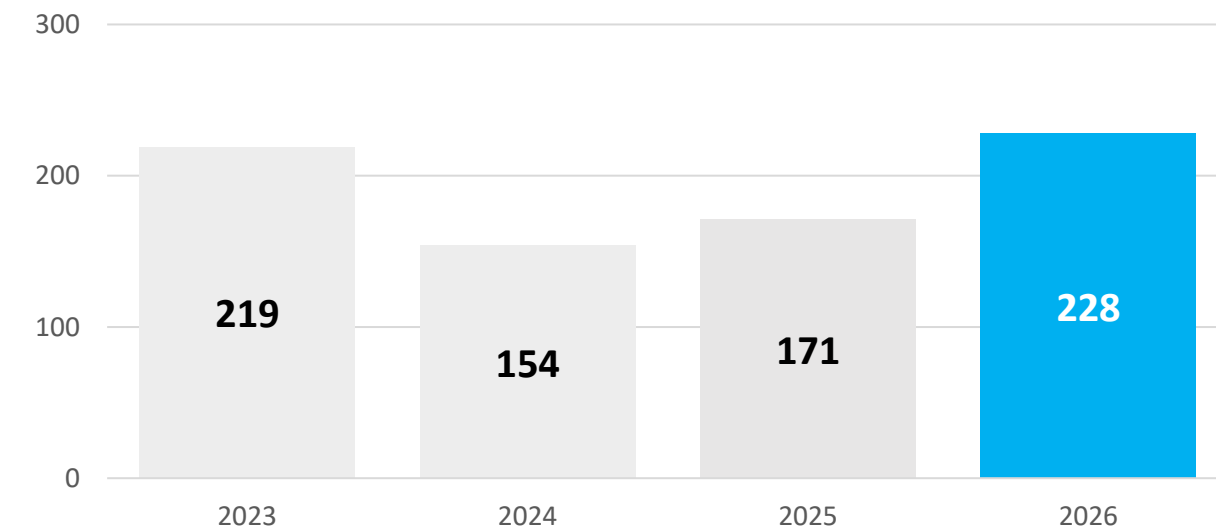
※百万円未満は切り捨て

## 営業利益



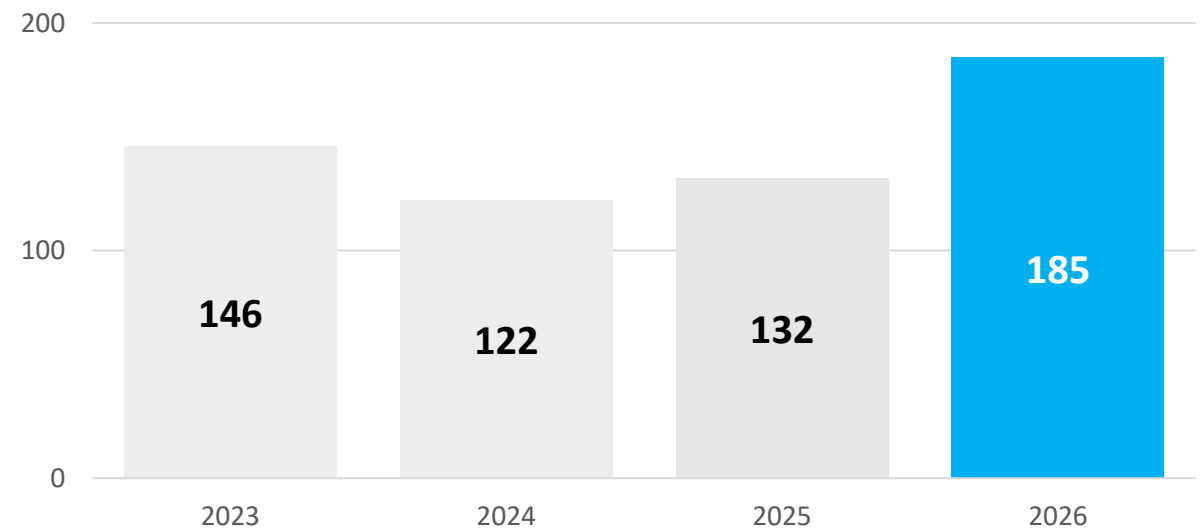
※百万円未満は切り捨て

## 経常利益



※百万円未満は切り捨て

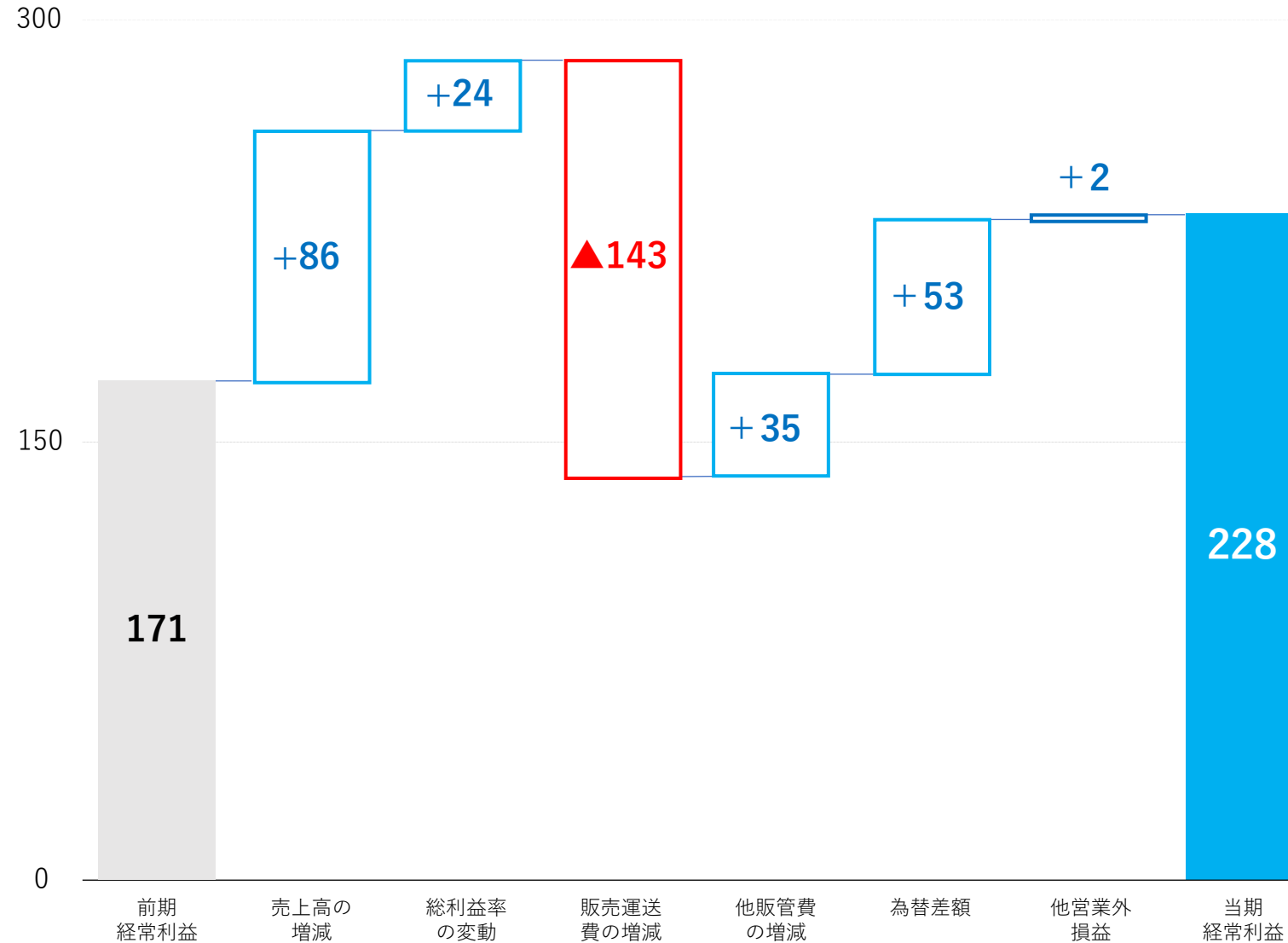
## 親会社株主に帰属する当期純利益



# 6. 前年同期比 当第2四半期（中間期） 連結経常利益の増減要因（単位：百万円）



※百万円未満は切り捨て



経常利益変動要因	影響額(百万)	備考
売上高の増減	+86	製造受託は前年同期を下回ったが、国内、米国市場を中心にアフター事業が伸びた。
売上総利益率の変動	+24	円安による外貨建売上の荒利増に加え、堅調なアフター需要で工場稼働率が上昇した。
販売運送費の増減	▲ 143	米国輸入関税の負担増の影響
その他販管費の増減	+35	主な増減要因については次頁を参照
為替差額	+53	前年度と当年度に計上した為替差益の差額
その他営業外損益	+2	政策保有株の売却による、投資有価証券売却益の計上等があった

## 7. 当第2四半期（中間期） 主要な販管費科目の増減（単位：百万円）



※百万円未満は切り捨て

	2025/2期	2026/2期	増減額	主な要因
販売運送費	90	233	+143	米国輸入関税の負担増
人件費	795	804	+9	昇給等による人件費増
旅費交通費	60	52	▲8	主にエッチ・ケー・エス本社における費用の減少
減価償却費	126	107	▲19	主にエッチ・ケー・エス本社における費用の減少
その他	537	520	▲17	主にエッチ・ケー・エス本社における試験研究費、雑費等の減少
合計	<b>1,610</b>	<b>1,716</b>	<b>+106</b>	販管費は主に米国輸入関税の負担増から、販売費がけん引する形で前年同期比増となった。

## 8. 当第2四半期（中間期）連結貸借対照表の概要（単位：百万円）



※百万円未満は切り捨て

	資産		備考
	2025/8 期末	2026/2 期末	
現預金	2,002	2,204	(+) 長期借入金取組、有価証券償還 (△) 電子記録債務の減に伴う支出
売上債権	1,039	993	
他流動資産	3,944	4,043	(+) 棚卸資産の増加 (△) 有価証券の償還
有形固定資産	5,114	5,067	建設仮勘定△73 機械装置及び運搬具 + 15
無形固定資産	107	90	
投資等	1,026	1,001	
繰延資産	-	-	
<b>資産合計</b>	<b>13,233</b>	<b>13,401</b>	

	負債・純資産		備考
	2025/8 期末	2026/2 期末	
仕入債務	642	503	電子記録債務△198（取適法対応） 支払手形及び買掛金 + 60
短期借入金	367	321	
他流動負債	836	767	
長期借入金	168	283	長期借入金の新規取組
他固定負債	568	584	退職給付引当金等の増
<b>負債合計</b>	<b>2,582</b>	<b>2,460</b>	
<b>純資産合計</b>	<b>10,650</b>	<b>10,940</b>	為替換算調整 + 105 未処分利益 + 93 他
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,233</b>	<b>13,401</b>	

## 9. 当第2四半期（中間期）のトピックス

### TOPIX ▶ 豊田合成株式会社のブランド「Re-S」とのコラボ企画商品を発売

- ・自動車部品メーカーである豊田合成株式会社（本社：愛知県清須市）のオリジナルエシカルブランド「Re-S（リーズ）」との共同企画により、SDGsの理念を取り入れたトートバッグとペンホルダーの2アイテムを、2025年11月10日より数量限定で日本国内向けに販売しました。

URL: [https://www.hks-global.com/news/251107\\_Re-S.pdf](https://www.hks-global.com/news/251107_Re-S.pdf)



SDGs トートバッグ



SDGs ペンホルダー

### TOPIX ▶ 香港で初開催の「TOKYO AUTO SALON HONG KONG 2025」へ出展

- ・当社は、2025年12月11日～14日に香港で初開催された「TOKYO AUTO SALON HONG KONG 2025」において、当社の車両販売事業“THE HKS”の象徴的モデルとなるコンセプトカー「THE HKS SKYLINE GT-R BNR34 Dimension Z」を展示いたしました。

URL: [https://www.hks-global.com/news/251114\\_the\\_hks.pdf](https://www.hks-global.com/news/251114_the_hks.pdf)



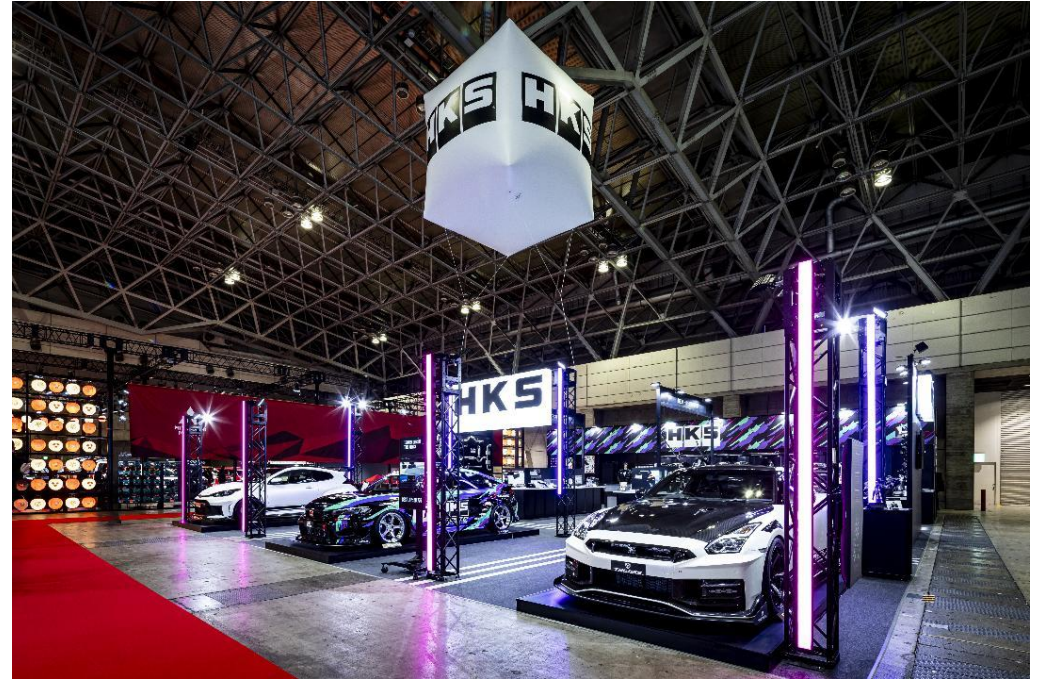
## 9. 当第2四半期（中間期）のトピックス



### TOPIX ▶ 東京オートサロン2026に、最新カスタマイズ提案とコンプリートカーを出展

- ・当社は、2026年1月9日（金）～11日（日）に幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催された「東京オートサロン2026」に出展し、「Customize Anything. Drive Everything.」をテーマに、最新モデルから往年の名車まで幅広いカスタマイズパッケージを紹介しました。

URL: [https://www.hks-global.com/news/251212\\_tas.pdf](https://www.hks-global.com/news/251212_tas.pdf)



### TOPIX ▶ 英ケータハム社の新型EV「プロジェクトV」に開発支援

- ・当社は、VTホールディングス株式会社（本社：愛知県名古屋市）傘下の Caterham EVo Limited（本社：英国、以下「ケータハム」）が推進する新型EVスポーツクーペ開発プロジェクト「プロジェクト V」において、試作車（プロトタイプ）の開発・製作支援および技術協力を行いました。

URL: [https://www.hks-global.com/news/251212\\_caterham.pdf](https://www.hks-global.com/news/251212_caterham.pdf)

VTホールディングス株式会社 WEBページ: <https://www.vt-holdings.co.jp/>

## 9. 当第2四半期（中間期）のトピックス



### TOPIX HKS×Defi φ60メーター 限定コラボレーションモデルを、東京オートサロン2026で初公開

- ・当社は、2026年1月に開催された「TOKYO AUTO SALON 2026」にて、日本精機株式会社（本社：新潟県長岡市、代表取締役社長：永野恵一）が展開するブランド「Defi」との協業によるコラボレーション企画の第2弾として、追加メーターセットを初公開しました。本商品は、2026年夏～秋頃より、数量限定で発売する予定です。

URL: [https://www.hks-global.com/news/251219\\_Defi.pdf](https://www.hks-global.com/news/251219_Defi.pdf)



### TOPIX カーボンニュートラルの実現に向け、開発中の燃料「HKS CNR FUEL」で筑波タイムアタックを開始

- ・当社は、カーボンニュートラル実現に向けた燃料開発の取り組みとして、開発中の低炭素燃料「HKS CNR FUEL」を用いた筑波サーキットでのタイムアタック検証を開始しました。

本取り組みでは、「HKS CNR FUEL」を使用し、当社が保有する筑波サーキットでのGR86チューニングカーレコードタイムである55.001秒の更新を狙います。加えて、燃料の実走適合性を検証し、市販化に向けた仕様の煮詰めを進めていきます。

URL: [https://www.hks-global.com/news/260206\\_cnr\\_fuel.pdf](https://www.hks-global.com/news/260206_cnr_fuel.pdf)



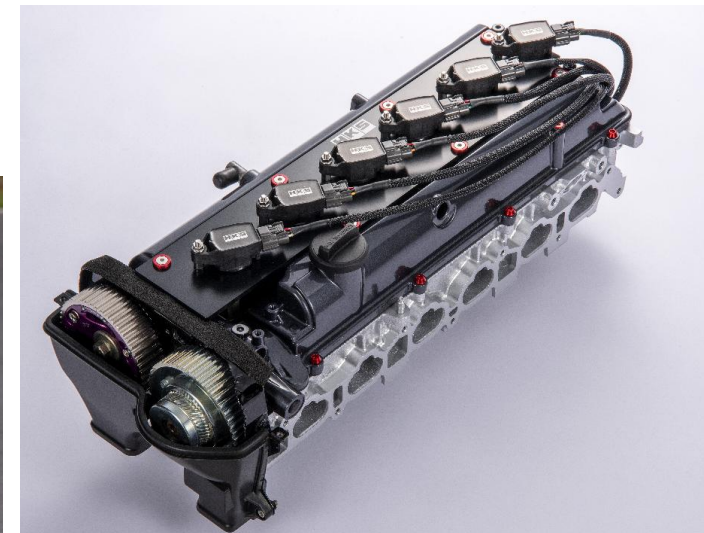
## 9. 当第2四半期（中間期）のトピックス



### TOPIX HKS×NISSEI、クラシックカー（旧車）向けパーツ開発・製作の取り組みを本格化

- ・当社と、当社グループで精密加工を担う日生工業株式会社（本社：埼玉県児玉郡、代表取締役社長:水口大輔、以下日生工業）は、2026年2月21日（土）と22日（日）にパシフィコ横浜で開催された「第17回ノスタルジック2デイズ」に共同出展し、クラシックカー（旧車）向けパーツの開発・製作に関するHKSグループの新たな取り組みを紹介しました。

URL: [https://www.hks-global.com/news/260209\\_hks\\_nissei.pdf](https://www.hks-global.com/news/260209_hks_nissei.pdf)



# 10. 当第2四半期（中間期）の新製品



## 新製品 ▶ HIPER MAX S (RENEWAL)

「走り心地」は新たなる次元へ - FLAT RIDE CONCEPT -

当社は、主力サスペンション商材のHIPERMAX Sシリーズをリニューアルしました。「フラットライドコンセプト」を軸に、減衰特性や各部パーツを最適化し、低速域の乗り心地を損なうことなく、コーナリング時の姿勢変化を自然にコントロール。路面の細かな凸凹で起きやすい”ゴツゴツ感”を抑えるとともに、「快適なのに気持ちよく曲がる」バランスを追求しました。



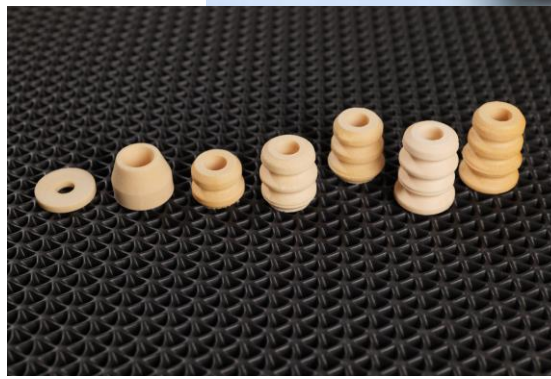
### アルミアッパーマウント

ショットの仕様を吟味。試作を重ね、マットな質感で落ち着いた美しい仕上がりを実現しました。純正アッパーマウントより適度に引き締める目的で強化ゴムを採用。細かいボディ振動を吸収し、しなやかな走りを実現します



### デュアルプリロードバルブシステム

伸び側の特性をスムーズにしつつ無駄な動きは抑えます。「FLAT RIDE CONCEPT」を実現するため、車種ごとに最適化しています。減衰力特性の最適化を行うことで、新たなる次元の走り心地を実現させています。



### アドバンスドバン普拉バーPlus

ストロークの早い段階からバンブータッチを狙い徐々に荷重を立ち上げる特性を継承。さらに形状のバリエーションを追加し、幅広いラインナップの中から、車種に合わせて最適な仕様を選択します。



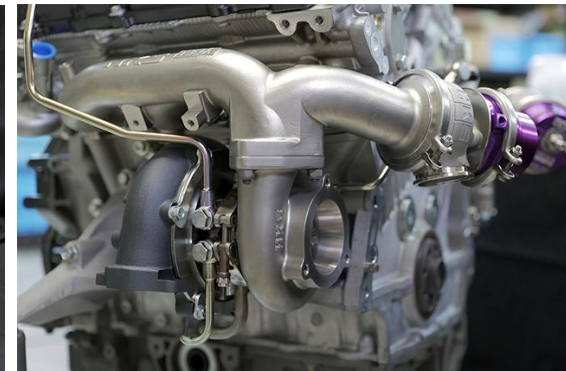
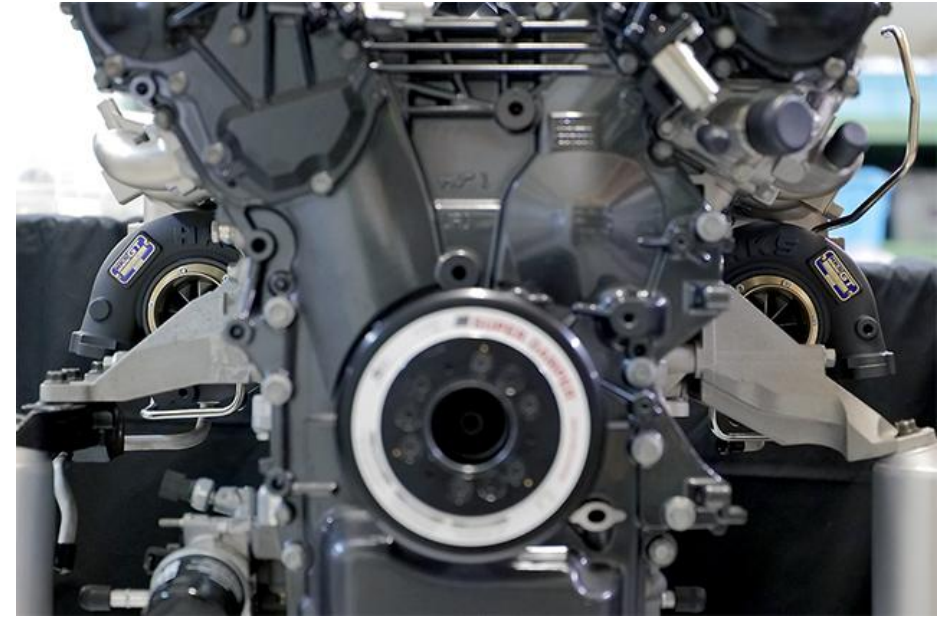
### WRニードル

減衰力調整ニードルの形状を見直し、オイル流量を変化させ、リリース通路を拡大した変化量の大きいニードルを採用しました。ソフト方向の調整幅を拡大する特性とすることで、よりソフト方向に対するセッティングの幅を確保しています。

# 10. 当第2四半期（中間期）の新製品

## 新製品 SPECIAL FULL TURBINE KIT GT5565\_BB for R35 GT-R

R35フルタービンキットの特徴である「シンメトリーレイアウト」を継承するキットを、GT5565\_BBで設定しました。最小限の加工で1000psオーバーの仕様を搭載可能なキットとなります。



R35専用設計のコンプレッサー。ハウジングをGT5565\_BB用に再設計。ポータッドシュラウドを極狭空間で成立。

GTII900/1000/1000+と共通のエキマニとGTIIウエストゲートレイアウト。ターボハウジングと共に耐熱鋳鋼で耐久性を確保。

# 10. 当第2四半期（中間期）の新製品

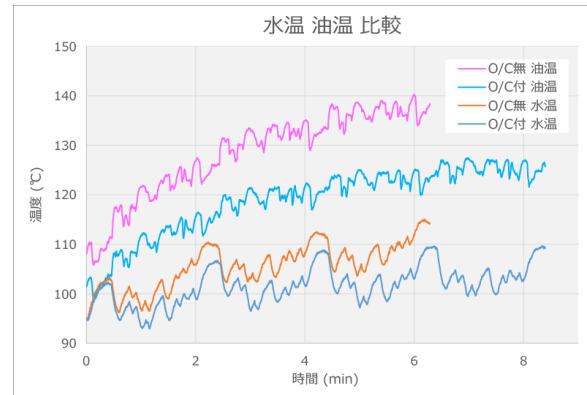
## 新製品 EVC 7-MR

- ・ 当社のハイエンドブーストコントローラー「EVC7」が、心臓部たるステッピングモーターをリニューアルし「EVC7-MR」に進化しました。最新技術に基づいたボディ内部形状やシャフトの設計変更を行い、より緻密で安定感あるブースト制御を可能としたほか、「圧力調整ステップ」を従来品の1/2とし、進化した圧力制御により、ブースト圧の立ち上がりや安定性を向上しました。



## 新製品 OIL COOLER KIT BLACK For CIVIC TYPE R FL5

- ・ シビックタイプR FL5は、先代FK8から走行性能・高出力化・空力性能まで多くの進化を遂げていますが、当社が実走テストや耐久テストを重ねた結果、高負荷走行時の油温上昇がFL5のウィークポイントであると分析しました。しかし、風洞試験を行った結果、純正フロントバンパーから得られるフレッシュエアだけでは冷却量が不足することが確認されたため、専用に設計した大型エアダクトと専用エアガイドを採用、積極的にフレッシュエアをコアへ導入できるFL5用オイルクーラーキットを発売しました。



## ① 新たな評価制度で、自身を見つめてさらなる成長を

新たな評価制度を通じ、従業員が自身を見つめ、さらなる成長をめざすための施策を進めます。HKSフィロソフィー、ミッション、ビジョンおよびバリューを全社に浸透させ、全社方針を共有、「皆で創る」を体現します。  
また、従業員がお互いに学び合い、教え合う環境を形成し、皆で成長する文化を醸成してまいります。

## ② 品質目標

品質目標においては、お客様の要求を製品開発に反映させるための各種手法を導入・実践していくことで、さらなる顧客品質の向上をはかるとともに、お客様を不安にさせない、不満を作らないための取り組みを、より一層進めてまいります。

## ③ グローバル市場・お客様・社員同士の理解を深めてスピード対応を

新規市場の開拓においては、新たなグローバル市場を模索し、新規販路の開拓を進めるとともに、サスペンションやマフラー、エンジン、過給制御部品等、内製部品を中心にコスト戦略の強化をはかり、競争力を高めてまいります。

## ④ HKSブランドを、さらなる高みへ

ブランド戦略においては、当社の工場を世界中の車好きの皆様にも見ていただき、Made in Fujinomiyaで、HKSファンを増やす取り組みを進めてまいります。  
マフラーはハイエンド展開とエントリーゾーンのすみ分けを明確化し、4WD車展開は国内外の仕向け地別にパッケージ商材を展開して認知度を高めてまいります。また、子会社の日生工業株式会社と連携し、旧車部品への展開をさらに推し進めてまいります。  
新たなレースカテゴリーにも挑戦し、新たな業界に対し、HKSブランドの認知をはかってまいります。